

トトロの森 51 号地における赤外線センサーカメラを使用した哺乳類・鳥類相の調査

児嶋 翼

(トトロのふるさと基金 調査部会)

要旨

本調査は、近年所沢市を中心とした狭山丘陵で急激に増加し、両生類などへの捕食による影響が懸念されている、特定外来生物アライグマの生息状況を把握することを目的とした調査である。また、それに伴った哺乳類・鳥類相の把握も行った。両生類が多く生息・産卵する湿地、トトロの森 51 号地を調査地として、2024 年 5 月 11 日～2025 年 5 月 16 日の間の一部の期間、赤外線センサーカメラを使用し調査を行った。調査の結果、哺乳類が 7 種、鳥類が 9 種確認された。哺乳類ではアライグマの撮影が多く、次いでホンドタヌキが多かった。鳥類ではコジュケイ、ガビチョウなどの外来種が多く撮影された。一方、撮影頻度が少なかったものはニホンアナグマやホンドキツネ、クロツグミなどであった。今調査では、トトロの森 51 号地における哺乳類・鳥類相の把握ができ、また同時に一定数のアライグマの生息も確認された。今後は捕獲への足掛かりとするための基礎情報としつつ、捕獲後の効果検証材料として使用していく予定である。

キーワード：アライグマ；湿地；特定外来生物；両生類

はじめに

特定外来生物に指定されているアライグマ (*Procyon lotor*) は、近年所沢市を中心とした狭山丘陵全体で増加傾向にあるとされている (渡邊 2023)。特に捕食などによる両生類などを含めた湿地生態系への影響が大きく (栗山・沼田 2020)、地域の生物多様性に大きな被害を及ぼしていることが懸念されている。実際にトトロの森 51 号地ではアライグマに捕食されたと思われるアカガエル (*Rana* sp.) の死体が確認されている (図 1)。トトロのふるさと基金としては両生類が多く生息・産卵する湿地、トトロの森 51 号地を最優先地として対策を進めることとした。まずは、現況を把握するために赤外線センサーカメラを使用した哺乳類・鳥類の生息状況調査を実施した。また、同時進行でアライグマの試験的捕獲も試みているが、この件についてはまた別の機会に報告する予定である。

調査方法

赤外線センサーカメラによる調査

トトロの森 51 号地を調査地とした (図 2)。元々は田んぼであった場所だが、耕作放棄されミヤマシラスゲ (*Carex olivacea* subsp. *confertiflora*) などの湿性植物が繁茂し、乾燥化が進んだ湿地となっている。周辺は雑木林の山に囲われ、いわゆる谷戸地形となっている。使用機材は赤外線

センサーによる自動撮影機能搭載のカメラ「Bushnell トロフィーカム XLT30MP ノーグロウ SC4K」3 台を使用した。設置場所は湿地沿いの陸地部分に設置し、それぞれ少し離れた場所に 1 個ずつ設置した (図 3)。撮影は静止画 (3 枚連続撮影) と動画 (20 秒録画) モードを併用し、撮影間のインターバルは 0.5 秒に設定した。設置は 2024 年 5 月 11 日～10 月 24 日 (以降前半と記載) と、2025 年 2 月 14 日～5 月 16 日 (以降後半と記載) の 2 クールで実施した。随時設置台数や設置位置などを調整させながら運用した。本調査は哺乳類・鳥類相を把握することを目的とした調査であるため、撮影頻度指数 (RAI) などは求めている。

調査結果

センサーカメラで撮影された哺乳類・鳥類一覧を表 1 にまとめた。撮影された動物の写真を図 4～図 19 にまとめた。調査では、哺乳類が 7 種、鳥類では 9 種が確認された。撮影努力量は計 508 カメラ日となった。

考察

今調査期間のうち後半では、アライグマ捕獲を目的としたカゴ罠設置と罠に慣れさせ捕獲効率を上げるための餌付けを行ったため、非常に多くの哺乳類が撮影された (餌付けは様々な動物への影響も懸念されるが、今回はアライグマの捕獲を優先するために実施した)。所感ではあるが、特に顕著だったのは全撮影枚数のうち半分以上がアライグマだったこと。同じ個体が現場に固執している可能性もあるが、同時に 3 個体撮影されたものもあり、トトロの森 51 号地において、それなりの生息密度であることがわかった。次に多かったものがホンドタヌキ (*Nyctereutes procyonoides viverrinus*)。同時に撮影されたのは 2 個体までであったが、比較的頻繁に撮影された。2025 年 3 月頃には繁殖行動をとっているペアも撮影された。児嶋 (2023) の調査でもホンドタヌキが多数撮影されたが、多くが疥癬病に感染していた。しかし、本調査では幸い疥癬病にかかった個体は確認されなかった。上記 2 種の活動時間としては、ホンドタヌキは比較的明るくなくても活動している印象を受けたが、アライグマは高い撮影頻度に対して、明るくなるとまったく撮影されなくなる状況が観察された。アライグマの性質上、臆病で強い警戒心を持っていることから、このような活動時間となっている可能性も考えられる。またイエネコ (*Felis silvestris catus*) も昼夜問わず、ある程度頻繁に撮影された。体の模様から判別して 4、5 個体程度は生息していると思われる。また、本調査で撮影された中で撮影頻度が少なかったものは、ニホンアナグマ (*Meles meles anakuma*) とホンドキツネ (*Vulpes vulpes japonica*) であった。トトロの森 51 号地周辺においては個体数が少ないものと考えられる。ちなみに近年周辺では確認されなくなったが、過去にはホンドイタチ (*Mustela itatsi itatsi*) やカヤネズミ (*Micromys minutus*) がトトロの森 51 号地周辺では確認されている (埼玉県 2011)。今回撮影されたいずれの哺乳類も、それぞれの種間で同時に撮影されることはほとんどなく、個別に撮影されていることが多かった。稀にアライグマとホンドタヌキが鉢合わせするシーンもあったが、両種とも非常に警戒している様子から餌場はそれぞれで鉢合わせしないようにしている可能性も考えられる。

鳥類については、本調査で 9 種撮影された。特に撮影頻度の高かったものはコジュケイ (*Bambusicola thoracicus*) とガビチョウ (*Garrulax canorus*) であった。いずれも外来種である。

また今回、トトロの森の赤外線センサーカメラによる調査では初記録となった雌雄のクロツグミ (*Turdus cardis*) も撮影された。繁殖を終え、渡る途中の個体の可能性も考えられるが、近年狭山丘陵において減少を危惧されている種類のため貴重な情報となった (対馬 2009)。本調査では、鳥類は後半ではあまり撮影されず、前半に撮影される傾向が見られた。後半の餌付けによって、アライグマなどの哺乳類が頻繁に通うようになったことの影響も排除できない。

本調査から、トトロの森 51 号地における哺乳類・鳥類相の把握を行うことができ、また同時に一定数のアライグマの生息も確認された。今後は捕獲への足掛かりとするための基礎情報としつつ、捕獲後の効果検証材料として使用していく予定である。

引用文献

栗山武夫・沼田寛生 (2020) 兵庫県神戸市におけるニホンアカガエル繁殖期に出没・カエルを捕食したアライグマの記録. 兵庫ワイルドライフモノグラフ 12: : 35-48.

埼玉県環境防災部みどり自然課 (2011) 狭山丘陵自然環境調査業務委託報告書 : 18.

児嶋翼 (2023) 泉の森における哺乳類・鳥類相の調査. トトロふるさと財団自然環境調査報告書 17: 78-89.

対馬良一 (2009) 「さいたま緑の森博物館」観察会で見られた鳥類. トトロふるさと財団自然環境調査報告書 6 : 68-72.

渡邊英之 (2023) 爪痕調査と捕獲記録の分析に基づく狭山丘陵のアライグマ生息状況の評価。野生生物と社会 11 : 76.

参考資料

いきものログ <https://ikilog.biodic.go.jp/> 2025 年 7 月 16 日アクセス

埼玉県 (2018) 埼玉県レッドデータブック動物編 (第 4 版)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/129694/11reddatabook-chourui.pdf>. 2022 年 8 月 5 日にアクセス.

獣害駆除ガイド <https://hw-control.or.jp/guide/> 2025 年 7 月 23 日アクセス.

高山夏鈴 (2025) トトロの森 21 号地のニホンイノシシ (*Sus scrofa*) . トトロふるさと財団自然環境調査報告書 19 : 15-35.

日本鳥学会 (2024) 日本鳥類目録改訂第 8 版

横山伸夫 (2013) クロスケの家におけるセンサーカメラによる夜間生物調査. トトロふるさと財団自然環境調査報告書 10 : 43-49.

渡邊英之・澤田集一朗 (2025) 東村山市の中型哺乳類. トトロふるさと財団自然環境調査報告書 19 : 36-48.



図 1. アライグマに捕食されたアカガエル (トトロの森 51 号地)



図 2. トトロの森 51 号地位置図 (国土地理院空中写真を編集・加工)



図 3. センサーカメラ設置位置図と設置状況 (黄色丸が設置位置、水色が湿地部分)
(国土地理院空中写真を編集・加工)

表 1. センサーカメラで撮影された哺乳類・鳥類一覧

	科名	種名(学名)
哺乳類	アライグマ科	アライグマ (<i>Procyon lotor</i>)
	イタチ科	ニホンアナグマ (<i>Meles meles anakuma</i>)
	イヌ科	ホンドキツネ (<i>Vulpes vulpes japonica</i>)
		ホンドタヌキ (<i>Nyctereutes procyonoides viverrinus</i>)
	ジャコウネコ科	ハクビシン (<i>Paguma larvata</i>)
	ネコ科	イエネコ (<i>Felis silvestris catus</i>)
	ネズミ科	ネズミ科 sp. (<i>Muridae sp.</i>)
鳥類	カラス科	ハシブトガラス (<i>Corvus macrorhynchos</i>)
	キジ科	コジュケイ (<i>Bambusicola thoracicus</i>)
	キツツキ科	アオゲラ (<i>Picus awokera</i>)
	シジュウカラ科	ヤマガラ (<i>Sittiparus varius</i>)
	ソウシチョウ科	ガビチョウ (<i>Garrulax canorus</i>)
	ツグミ科	クロツグミ (<i>Turdus cardis</i>)
		シロハラ (<i>Turdus pallidus</i>)
	ヒタキ科	ルリビタキ (<i>Tarsiger cyanurus</i>)
ホオジロ科	アオジ (<i>Emberiza personata</i>)	



図 4. 撮影されたアライグマ (2024 年 8 月 14 日撮影)。カメラに反応している



図 5. 撮影されたアナグマ (2025 年 3 月 25 日撮影)。珍しく昼間に撮影された



図 6. 撮影されたホンドキツネ (2025 年 3 月 30 日撮影)。カゴ罠の様子をみている



図 7 撮影されたホンヨタヌキ 2 頭 (2025 年 3 月 9 日撮影)。この 2 頭は映像で交尾が確認されたのでオスとメスと思われる。映像左側の何かに注目している



図 8. 撮影されたハクビシン (2024 年 9 月 25 日撮影)



図 9. 撮影されたイエネコ (2024 年 9 月 25 日撮影)



図 10. 撮影されたネズミ類 (2024 年 9 月 30 日撮影)。アカネズミの可能性が高いと思われる



図 11. 撮影されたハシブトガラス 2 羽 (2024 年 7 月 30 日撮影)。一時期に集中して撮影された



図 12. 撮影されたコジュケイ (2024 年 5 月 31 日撮影)



図 13. 撮影されたアオガラ (2024 年 9 月 17 日撮影)。朽ち木の中の虫を探している様子



図 14. 撮影されたヤマガラ (2024 年 10 月 14 日撮影)



図 15. 撮影されたガビチョウ (2024 年 5 月 30 日撮影)



図 16. 撮影されたクロツグミオス (2024 年 10 月 6 日撮影)。この前後ではメスも撮影されている。
鳥類は好んで倒木の上にとまる傾向がある



図 17. 撮影されたシロハラ (2025 年 3 月 20 日撮影)



図 18. 撮影されたルリビタキオス (2025 年 4 月 3 日撮影)



図 19. 撮影されたアオジ (2025 年 4 月 8 日撮影)